

ジェームズ・ヴァンシュ

フレデリック・ショパンのエチュード作品10-12による変奏曲



革命のエチュード





ジェームズ・ヴンシュ

James Wunsch

フレデリック・ショパンのエチュード作品10 - 12による変奏曲

Variation on Etude Op.10 No.12 C-minor
by Frederic Chopin

革命のエチュード

Revolutionary Etude

email: thegroovypianist@protonmail.com

© Copyright 2018 by James Wunsch all rights reserved

練習曲 Op.10-12 ハ短調

ナポレオン戦争によりポーランドは独立国ではなくなり、1815年のウィーン会議において4つの地区に分割されることが決定された。その後ポーランドにおける生活は悪化の一途をたどり、国民の政治的自由は年々制限されていった。この不満は、1830年ロシアからの抑圧に対するいわゆる十一月蜂起としてついに爆発することになる。

当時ウィーンに滞在していたショパンはこの事件に対して大いに狼狽したが、ポーランドに住んでいた家族との強い繋がりにも関わらず、二度とポーランドに戻ることはなかったとされている。

1831年7月、ウィーンからパリに向かう途上のシュトゥットガルトで、ショパンはワルシャワが陥落したとの報を受けた。彼はショックを受け非常に憔悴し、確証があるわけではないが、この出来事が後に「革命のエチュード」として有名となる練習曲 Op.10-12 ハ短調を作曲するきっかけとなったと言われている。このエチュードは1832年に完成され翌年出版された。

変奏曲について

練習曲 Op.10-12 は非常に力強く、戦場に響き渡る大砲のように激烈な作品であり、この作品をあるがままの姿として愛さずにはいられない。

しかし昨年私がショパンの練習曲集を即興で編曲していたおり、革命のエチュードの左手部分を右手で、かつ2オクターヴ高く弾いてみてはどうかと思いつき試してみたところ、非常に響きが美しく、左手と右手を逆に演奏するよう譜面に起こした次第である。

実際のところさほど手の込んだ仕事をしたわけでもないが、この変奏曲は右手のテクニクのための非常に素晴らしい練習になる。このエチュードをこうして弾いてみることは承知のとおりいくらかの慣れを必要とするが、技巧的には非常に容易でありまた同時に独創的である。

この変奏曲が楽譜を手にとられる皆様のお気に召されることを願うとともに、実りのある練習と成果を祈念いたします。



ジェームズ・ヴンシュ
(James Wunsch)

Variation on Etude No. 12 C-minor by Frederic Chopin

for my Mother

Allegro con fuoco (♩ = 160)

James Wunsch

Piano

legatissimo

ff

cresc.

3

sf con fuoco

6

cresc.

9

ff

12

fz



